

『太政官日誌』を対象にした史料学の構築と 戊辰戦争期の社会文化論に関する学際的研究

維新政府系の出版物のうち、いわゆる日誌類は官報前誌として位置づけられていますが、日本近世・近代史研究の狭間にあつて研究の遅れは否めないところがありました。そのうち『太政官日誌』は早くから異本の存在が指摘されてきましたが、慶應4年・明治元年分だけでも178号と大量に存在し、各機関に散在しているなどの理由から、踏み込んだ研究はほぼ手つかずという状況になっていました。

そこで2008年秋、戊辰戦争期木版刊行物研究会を立ち上げ、2010年度から9名の研究者で共同研究を進めています。本研究では、『太政官日誌』に適合的な史料学を確立し、また『太政官日誌』とはいったい何なのか、その本質を見きわめて、当該期の社会文化の特質に切り込みたいと考えています。これまで各地に散在する『太政官日誌』の所在状況調査を踏まえ、異本調査を共同実施しながら、採集したデータや関連史料をもとに学際的に研究を進めてきました。

今回の公開研究会では、これまでの研究成果を公表するとともに、研究方法について多くの方々からご意見をいただきたいと思っています。ご多忙と存じますが、皆さま、ふるってご参加ください。

日時：2012年12月9日(日) 13:30-17:30

会場：東京大学史料編纂所大会議室（福武ホール・地下1階）

（史料編纂所の向かい側の建物、UTカフェ横の入り口からお入りください）

共催：

科学研究費補助金基盤研究(c)「『太政官日誌』を対象にした史料学の構築と戊辰戦争期の社会文化論に関する学際的研究」（研究代表者：藤實久美子）

戊辰戦争期木版刊行物研究会

東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター・戊辰戦争期摺物画像研究プロジェクト

報告1 藤實久美子（ノートルダム清心女子大学）

「『太政官日誌』の共同調査について—一方法論の模索—」

報告2 石田七奈子（総合研究大学院大学）

「摺り消し・校正に見る『太政官日誌』異本」

報告3 山口順子（メディア史研究者）

「『太政官日誌』諸本比較について」

*会場にて『太政官日誌』諸本比較のパネル展示を行います。

*参加費は無料ですが、事前申込みが必要です。参加を希望される方は、研究会参加登録フォーム (<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/footer/seminar-entry.html>) にてご一報ください。